



“馬は馬方、餅は餅屋、情報はマック”

THE MAC JOURNAL

三菱商事アグリサービス株式会社

2008年9月10日発行ラインナップ

・菱肥会サミット開催

・ビジネスマッチング各地で開催

菱肥会サミット開催～V-2011に向けて

来る10月16日(木)開催の菱肥会全国連合会総会に向けて、菱肥会役員会「菱肥会サミット」が8月29日(金)に三菱グループの迎賓館である「開東閣」において催された。役員会において、新会長に三菱商事肥料ユニット 水野和也ユニットマネージャー、新理事長に豊田肥料 豊田富士雄社長が就任する新布陣が決定した。

菱肥会は、昭和39年に「三菱会」(昭和50年に菱肥会に改名)として発足し、今年で44年目に当たる。菱肥会は「長き伝統に裏打ちされた創造」に向けて共存共栄を図ることを目的としているが、3年前の総会にて承認されたスローガン「食と農の架け橋～菱肥会～」の下、肥料の安定供給に加えJGAP普及などの新たなアグリサービスを提供する活動を生んだ。10月の総会では、経済



開東閣前にて。三菱自動車で開発中の電気自動車「MiEV」(写真右)

ジャーナリスト財部誠一氏による基調講演「農業イノベーション」の後、農業生産者、食品流通業界の方々も参加したパネルディスカッションが予定されており、農業変革時における肥料商の新たな役割について具体的なイメージが浮かんでくることが期待される。役員会終了後、三菱商事肥料メーカー5社を統合したエムシー・ファーターコム(株)高野社長より機能性商品の中核に日本農業の更なる発展に貢献する意思表示に加え、菱肥会の前向きな活動を期待する旨の発言があった。研修の部では、地域と農業の活性化を複合的に支援する『農工商等連携促進法』について中小企業庁阿部課長補佐の概要説明があり、その活用方法に関し活発な質疑応答があった。講演の部では、マーケットインの視点から生食スイートコーン「未来」並びに家庭料理用トマト「シシリアンルージュ」を開発した、パイオニアエコサイエンス(株)竹下社長より、売れる農産物作りには「勝負に勝つ」の気概が必要であると共に「消費者は何をスーパーで求めているか」を調査・解析することが重要であるとお話を頂いた。

先人は「伝統なき創造は盲目なり。創造なき伝統は空虚なり。」と示唆しておりますが、「創造ある伝統」を目指し、第12回菱肥会全国総会(10/16、経団連会館・東京大手町)に菱肥会会員皆様のご参加をお願い申し上げます。

菱肥会まで
あと35日

菱肥会 豊田新理事長 新任のご挨拶

猛暑の続きました今年の夏も漸く過ぎ行き、実りの秋を迎えました。全国菱肥会の皆様には益々ご壮健でご活躍のことと推察申し上げます。

さて、この度役員会におきまして、現宮本理事長のあとを不肖私にとのご指名がありました。長らく我々会員をご指導戴いた宮本様には、大変お元気にご活躍中でもあり、是非引き続きご尽力賜りたいと存じておりましたが、勇退のご決意は固く、私ごとときがお引き受けすることとなりました。44年の伝統ある菱肥会であり、浅学菲才の私にはとても任が重いのですが、水野会長・小林副理事長・児藤副理事長のお助けを得て何とか任期を全うしたいと存じます。会員皆様のご協力を是非とも賜りますようお願い申し上げます。

ところで、この秋は製品・原料価格の高騰を受け、農産物価格低迷下の農家への肥料販売は例年以上に難しい状況になってきております。従前に増す個別生産農家の立場に立った施肥計画を相談していかねばならないと感じております。又、価格急騰に対するJ A系統の対策もいっせいに発表されてきました。商人系には無いファンドを組織内から捻出し農家対応を始めております。我々には対抗する手段が限られておりますが、少なくとも国からの公的対策については商人系にも公平に制度の対象

(次ページへ続く)

(前ページより続く)

としてもらいたいものです。実は、このような緊急対策だけでなく、これからの農業政策の大転換に対しては、我々農家・農業者のため制度を積極的に活用していかなくてはならないと考えます。会員それぞれ地域もビジネスコンセプトも違いますが、“地域力の核”として農工商連携にかかわってまいりたいものです。三菱さんのご指導ご支援を得ながらこの“時代の大波”を乗り越えて参りましょう。会員皆様のご協力を切にお願い申し上げます。(豊田肥料㈱ 社長 豊田富士雄)

菱肥会 宮本理事長退任のご挨拶

平成8年12月に菱肥会全国連合会理事長であられた、旧フクベイ(株)円谷亮平様のご逝去により、急遽私が理事長の大役を務める事となりました。私はこの理事長職をお引き受けするに当り、私の名前“和一”の「和」が世の中いかに変化しようとも大事と考えました。聖徳太子の十七条憲法『和を以て貴しと為し』の精神を以って役職を務めてまいりました。お陰様で本日まで皆様のご協力と絶大なるご支援を賜り、務めることが出来ました。

この間皆様ご高承の通り、農業を取り巻く状況は大きく変化致しました。本年8月1日には、他に先駆けて三菱商事関連メーカー5社の大統合が行われ、新会社がスタート致しました。新しい時代を迎え、歴史・伝統ある菱肥会も新たな活動をすべき時期と考え、理事長職を辞任させて頂きたいと存じます。これからも、スリーダイヤの旗印のもと、菱肥会は全員で目標に向け、さらに団結し総力を挙げてご発展する事を心から祈念申し上げます。

茲にあらためて長年に亘る皆様のご協力、種々なお立場からのご支援に感謝しつつ、退任の挨拶とさせて頂きます。(宮本商事㈱ 会長 宮本和一)

ビジネスマッチング各地で開催

日本各地の地場産品・農産物、地域資源の活用、農工商連携を目指し、海外に向けての売り込みや、地方の元気作りを支援する、銀行や各地産業支援センター主催によるビジネスマッチング(取引先紹介)が各地で開催されている。第一次産業人口が多い地方にとって、「アグリビジネス」の支援は、地域経済の活性化と雇用機会の創出に不可欠である。農業法人やJAと食品会社・青果会社のバイヤーが集まり、食品企業に対して紹介し地域食材の販路拡大や地域企業の業容拡大、活性化を支援している。ニーズ企業(買い手)と参加企業(売り手)との出会いの場をセッティングする個別商談会を行っている。

9/5～6にひめぎんビジネスマッチングフェア「メイド・イン愛媛2008」農工商連携ビジネス商談会が開催された。地方銀行は、地域の農業法人もしくは農業に関連する事業を営む法人に対し、自己資本充実ニーズを充足するための出資を提案する体制を構築している。また安定した農業経営を支援するためビジネスマッチングに積極的である。ビジネスマッチングを事業拡大・事業強化・合理化等の様々な課題を、銀行の取引先企業をビジネスパートナーとして紹介することで、的確に解決してもらうことを目指している。



東京では5日、大手銀行としては初めて三菱東京UFJ銀行が開いた“アグリプレミア商談会”。高級食材を生産する農業法人30社とホテルや百貨店などのバイヤーが集まり、全国から持ち寄られた自慢の食材が披露された。都市銀行が農産物に特化した商談会を開くのは初めての試みである。

食の安全性が注目される中、食材探しに積極的になるホテルやレストランと、融資している農業法人とを引き合わせることで、銀行としては今後、農業法人の販路拡大につなげ、ビジネスチャンスを確認したい狙いがある。今後、JGAP認証法人にとっては、確りした農業経営を営む上で銀行の支援は心強い。まだまだ赤字経営が多いといわれる法人の経営内容が、今後改善されることを期待する。

早いもので、当紙は300号を迎える事ができました。ご愛読頂いている皆様の温かいご支持に深謝申し上げます。これからもより良い紙面作りに尽力して参りますので、宜しくお願い致します！

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011/E-mail：journal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp